

平成30年度公益財団法人ふくしま海洋科学館事業報告書

【事業総括】

平成30年度は、第10回世界水族館会議を小名浜魚市場を本会場として開催し、35カ国500名の参加を得ました。ウェルカムパーティー、開会式と同日の基調講演には秋篠宮文仁親王殿下（当時）のご臨席も賜りました。

入館者数は、563,517人と、震災前の平成22年度に比べると34.6%の減ですが、前年比5.9%の増加となりました。

基本理念と展示のシナリオを堅持しつつ、自然とのふれあい、味覚を含めた五感に訴える体験プログラムなどを実践して、自然への扉を開く体験的学習の場の提供に取り組みました。

また、展示の充実を図るために、水生生物保全センター機能を十分に生かし、採集及び飼育が困難とされる魚類等の繁殖研究や、ラブカ雌の卵及び卵黄を有する胎児を初めとする深海性魚類の飼育実験を行いました。

「ふくしまの海」のエリアについては、「ふくしまの海～大陸棚への道～」としてリニューアルオープンしました。

海外における域内保全活動と位置づけているシーラカンス調査については、インドネシアで開催された国際会議2件に参加し、講演を行いました。また、国内外の共同研究者とともに2017年に北九州市立自然史・歴史博物館で開催されたシーラカンス国際シンポジウムの成果として同館の紀要に4本の学術論文の発表を行いました。

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館では、福島県内の希少淡水魚の保全活動及び参加体験型的水族館として教育普及活動事業を展開しました。新たにカワガラス、カワセミの展示を開始しました。また、1号館2階を木育キッズコーナー「森のこぼこ」に改修しました。

- 1 11月5日より10日まで第10回世界水族館会議を小名浜魚市場を本会場として開催し、35カ国500名の参加を得ました。ウェルカムパーティー、開会式と同日の基調講演には秋篠宮文仁親王殿下（当時）のご臨席も賜りました。4日間の本会議の中で、8演題の基調講演、43演題の口頭発表、52演題のポスター発表が行われ、近年の海洋環境を取り巻く諸問題や野生生物の保全、水族館の技術向上と世界における役割について闊達な意見交換が行われました。
- 2 親潮アイスボックスにニュードウカジカの展示を行い、オオメンダコやハゴロモコンニャクウオ等他では見られない展示を行いました。この他、水生生物保全センター串本分館を活用して飼育困難生物種の魚卵の採取を行いました。
- 3 水生生物保全センターでは、東海大学との共同研究としてラブカ雌のお腹から出てきた卵及び卵黄を有する胎児をはじめとする深海性魚類の飼育実験を行い、展示することができました。また、ラブカミーティングもおこなわれました。
- 4 県内希少淡水生物であるシナイモツゴやゲンゴロウ類などの繁殖を行いました。また、域内保全の基礎資料としての県内淡水生物の生息地調査を行いました。

- 5 ユーラシアカワウソが雌3個体を出産し、「りく」「かい」「ふう」と命名しました。
- 6 「ふくしまの海」を閉鎖し、改修工事を行いオープンしました。
- 7 本館の金魚展示を水生生物保全センター横に新たに設置した金魚館に移設しました。
- 8 友好提携園館である新潟市水族館とのROVを使ったアカムツ調査や生物交換を行いました。
- 9 インドネシアで開催された国際会議2件に参加し、シーラカンス学術研究の成果とインドネシアシーラカンスの置かれた状況について講演を行いました。また、国内外の共同研究者とともに2017年に北九州市立自然史・歴史博物館で開催されたシーラカンス国際シンポジウムの成果として同館の紀要に4本の学術論文の発表を行いました。
- 10 水産物の風評被害払拭を目的とした「調(た)ベラボ〜ふくしまの魚を食べてみよう〜」を4回開催し、当館周辺及び福島県沖で採集した魚の放射線量を測定解説すると共に、試験操業漁獲物の試食会を催しました。
- 11 海洋生物の放射能汚染調査に取り組み、その結果について館内展示や研究会等において情報提供を行いました。また、金沢大学、国立研究開発法人水産研究・教育機構、木戸川漁業協同組合との共同調査を継続して行い、結果を第3回Happy Oceansサミット等で発表しました。
- 12 学校教育を支援するための館内学習プログラムや移動水族館を開催し、当館の学校利用の促進を図るとともに、館内の常設プログラムとして命の教育の場である釣り体験や、漁業関連体験プログラムである缶詰製造体験、かつお節削り体験を開催して、生涯学習施設としての機能を充実させました。
- 13 山川海の好循環を象徴するシンボルとして、また、林業振興を目的として、おまつり広場に伝馬船工房を建設し、「海竜丸」と「地球1号」の2艘の伝馬船を製作し、世界水族館会議でお披露目を行いました。さらに炭焼き窯「たろうがま」を製作し、炭の製作と販売を開始しました。
- 14 誘客と来館者サービス向上のため、様々なイベント、企画を実施しました。
- 15 いなわしろカワセミ水族館では、新たにカワガラス、カワセミの展示を開始しました。また、1号館2階を木育キッズコーナー「森のこぼこ」に改修しました。

【事業内容】

I 公益目的事業

1 飼育展示事業

(1) 水槽展示及び生物の飼育状況

平成30年度末時点での展示は以下のとおりである。

① 水槽数

本館	119槽
BIOBIOカップの里	1槽
蛇の目ビーチ	1槽
わくわく里山縄文の里	2槽
アクアマリンえっぐ	28槽
金魚館	8槽
合計	159槽

② 生物の飼育状況

哺乳類	8種	47点
鳥類	8種	74点
爬虫類	6種	7点
両生類	13種	450点
魚類	439種	52497点
昆虫	11種	165点
無脊椎	304種	16598点
植物	500種	約20000点
金魚	58品種	973点
合計	1289種	89838点
	58品種	973点

(2) 生物収集事業

展示生物(水生生物、陸上小動物及び植物)採集、購入・輸送

① 淡水生物採集

オイカワ、イトヨ他県内生物採集・熱帯生物購入

② 沿岸生物採集

福島県水産試験場調査船乗船採集、深海生物

福島県松川浦採集・小名浜サンマリーナ アマモ、ギンポ類他

③ 北方系生物採集：北海道オホーツク海沿岸

ハダカカメガイ、ナメダンゴ、オオメンダコ、オオグチボヤ等深海性生物

④ 南方系生物採集

メバチ、マイワシ

⑤ サンゴ礁、マングローブ生物収集

熱帯魚やコモチサヨリ等

⑥ 植物：県内採集でシュンラン等・ラン（購入）

⑦ ユーラシアカワウソ繁殖（雌2頭）

(3) 南方系生物蓄養事業

メバチ、キハダを蓄養・輸送・搬入（奄美大島）

(4) 水生生物保全センター運営事業

① 飼育困難生物の研究（串本分館）

- ② シナイモツゴ、ゲンゴロウ等の繁殖研究
- ③ 駿河湾ROV調査
- ④ サンマやラブカ他の飼育調査研究

(5) 飼育生物管理事業

本館、えっぐ、水生生物保全センター、屋外施設の動植物展示及・飼育管理

2 移動水族館事業

主催者要請に応じ、移動水族館専用車（通称：アクアラバン）を派遣し、各地域・施設のイベント等に出展。

海の生物に親しむ機会を提供し、当館への興味、関心を高めてもらうことと併せて、開催地の地域振興に貢献。

3 研究交流事業

(1) 学会・研究会等

- ① 平成30年4月23日
北スラウェシ沿岸資源の持続的管理セミナー
「インドネシアシーラカンスの発見と分布について」基調講演
- ② 平成30年5月16日
「飼育下におけるコトクラゲの繁殖と育成」日動水総会（口頭発表）
- ③ 平成30年7月12日～7月13日
「ユーラシアカワウソにおける雌雄の行動変化を指標とした発情状態の推定」
野生動物保全繁殖研究大会（ポスター発表）
- ④ 平成30年7月22日～7月28日
「Re-Create for the natural habitat of Eurasian Otter and Reproduction behavior on the Exhibition enclosure in Aquamarine Fukushima」
International Conference on Eurasian Otter Conservation and Re-introduction in Taiwan（口頭発表）
- ⑤ 平成30年8月1日
「飼育個体から得たモロトゲエビ属2種のポストラバの種判別形質」日本甲殻学会誌
- ⑥ 平成30年8月4日
日本理科教育学会
「水族館の実情を踏まえた学校教育との連携～授業デザインの在り方～」発表
- ⑦ 平成30年8月31日～9月2日
「ユーラシアカワウソにおける雌雄の行動変化を指標とした発情状態の推定」
日本野生動物医学会大会（ポスター発表）
- ⑧ 平成30年9月20日
第3回国際オペレーションズ・リサーチシンポジウム
「インドネシアシーラカンスの生物学的調査」基調講演
- ⑨ 平成30年10月7日
「卵保護するカエルアンコウ科 *Lophiocharon lithinostomus* の繁殖と育成」
2018年度魚類学会（ポスター発表）

- ⑩ 平成30年10月19日
「モロトゲエビ属3種におけるポスターバ形態の比較」甲殻類学会（ポスター発表）
- ⑪ 平成30年11月9日
「Happy Oceans Campaign, “Preserving and Eating Oceans”」第10回世界水族館会議（ポスター発表）
- ⑫ 平成30年12月9日
「ラウスブドウエビの餌料と成長について」関東東北北海道ブロック水族館技術者研究会（口頭発表）
- ⑬ 平成30年12月16日
「水族館で取り組む稚魚研究 ～現状と課題～」稚魚研究会（口頭発表）
- ⑭ 平成31年1月8日
「アクアマリンふくしまの取り組み」海星高校（講演）
- ⑮ 平成31年1月16日
「木戸川とアクアマリンふくしまの取り組み」檜葉町（講演）
- ⑯ 平成31年1月30日
「レッサースローロリスの餌料による体重コントロールについて」関東東北北海道ブロック動物園技術者研究会（口頭発表）
- ⑰ 平成31年3月31日
北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類自然史 17 巻掲載
・マダガスカル産三畳紀のシーラカンス新種 *Whiteia uyenoteruyai* (肉鰭亜綱、シーラカンス下目) とワイテア科の古生物地理 (英文)
・2005 年から 2015 年にかけての無人潜水機 (ROV) を使ったインドネシアシーラカンス *Latimeria menadoensis* の調査 (英文)
・インドネシアシーラカンス *Latimeria menadoensis* 初の幼魚の観察と *Latimeria chalumnae* 胎子との比較 (英文)
・インドネシアシーラカンス *Latimeria menadoensis* の 7 個体目となる標本の外部形態の精密計測並びに本種の既存標本の形態に関する条約の集約 (英文)
- ⑱ 平成31年3月
「動物の行動を引き出す生息環境再現展示における生物・水質管理について」日本水環境学会誌（掲載）

4 海洋文化推進事業

(1) 世界水族館会議事務局

① 実行委員会開催 3 回、情報連絡会議開催 2 回本会議

② 本会議

開催期間：平成30年11月5日より10日

開催場所：小名浜魚市場（本会場）

潮目交流館（企業展示、ポスター会場）

アクアマリンパーク（歓迎イベント）

ら・ら・ミュウ（特別展）

葛西臨海水族園（プレイベント）

参加者：35カ国500名

発表演題：基調講演8題、口頭発表43題、5ポスター発表52題

企業出展：31社

協賛企業：109社

ボランティア：73名（申し込み124名）

(2) グリーンアイ・プロジェクト

①国際会議参加 2件

②研究論文発表 4件

③講演 3件

5 企画営業事業

(1) 企画管理事業

接客や案内誘導等の業務委託、年間パスポート販売等（来館者サービス向上）

①券売・受付業務委託

券売・改札業務（専門業者委託で接客・質向上）

②年間パスポート販売

・入館者数の増加を目的に販売

・通常販売、福島県子育て応援パスポート事業（協賛）やプレゼント等の割引販売を展開

・平成30年度販売実績

一般 5,653枚（平成29年対比 98.9% 61枚減）

小～高 1,528枚（平成29年対比 99.2% 12枚減）

計 7,181枚（平成29年対比 98.9% 73枚減）

(2) 広報宣伝事業

県内外に一層アピール。展示リニューアルオープン及びイベント開催告知、誘客促進。世界水族館会議告知。各種媒体で積極的な広報宣伝活動を展開し、パブリシティによる紹介の増加を図った。

① 各種媒体等を活用した広報

ア テレビCM放映

夏休み向け：県内4局、宮城3局

イ 新聞広告

地元3紙へ観光シーズンに広告掲載。世界水族館会議開催に合わせて告知広告掲載

ウ 雑誌広告等

夏季中心に県外フリーペーパーおよび情報誌に広告掲載

エ 看板

福島空港に広報看板掲出

オ Web

夏季 Google、Yahoo、Facebook ヘッドディスプレイ広告掲載

カ その他

- ・県内の新聞、情報誌にパブリシティ活用の広報活動と Web 旅行情報サイト掲載
- ・GW テオ・ヤンセン展開催に伴う広報（実行委員会による）
- ・テレビ県内 1局（福島テレビ）
- ・新聞 県内1社（福島民報）
- ・ラジオ 県内2局
- ・チラシ折込

② ポスター・パンフレット等の作成・活用

ア 館内案内リーフレット

- ・館内案内リーフレットを来館者に配布
- ・県内外観光施設、旅行エージェント、公共施設等に配布

イ イベントチラシ・ポスター

- ・展示のリニューアルおよびイベント開催に合わせチラシ・ポスターを作成、県内外の公共施設、観光施設等に配布・掲出
- ・市内・北茨城地区への新聞折り込みや小学校、幼稚園の児童・園児への配布
- ・講演については高校・大学へ配布し、企画に合わせた広報を実施

ウ 広報用チラシの作成

- ・年間を通した広報用にチラシを制作、移動水族館等で配布

③ 公式ホームページリニューアル

公式ホームページをパソコン、スマートフォン双方での表示に対応したデザインに全面リニューアル。バーチャル見学ができるよう VR ページを作成

④ 広報イベントの実施

来館者サービス向上と広報を目的としたイベントの実施

ア 鯨にまつわるエトセトラ

平成 30 年 4 月 8 日（日）・21 日（日）

「いわき七浜・捕鯨文化コーナー」オープン記念として、ギャラリートークを実施

イ ゴマファザラシの子ども名前募集

平成 30 年 4 月 13 日～5 月 6 日に募集し 5 月 20 日（日）命名式実施。「ゆうき」と命名

ウ 猪苗代の雪をプレゼント

平成 30 年 4 月 19 日（木）

猪苗代町から届けられた雪でアザラシイメージをした雪像をつり、水槽前に展示

エ ふくしまの海～大陸棚への道～オープニングセレモニー

平成 30 年 4 月 27 日（金）

幼稚園児を招待しテープカットを実施、先着 100 名に記念品をプレゼント

オ 世界カワウソの日イベント

平成 30 年 5 月 25 日（金）～6 月 10 日（日）

オリジナルのカワウソ絵描き歌を制作し、幼稚園児に披露していただくとともに、カワウソのふちコーナーにお絵かきスペースを設けた。

- カ 南極の氷贈呈式
平成 30 年 7 月 22 日 (日)
海上自衛隊砕氷船「しらせ」が持ち帰った南極の氷の贈呈式
- キ フェネック名前募集
平成 30 年 8 月 1 日 (水) ~ 19 日 (日)
平成 30 年 10 月 13 日 (土) に命名式を実施。「ミミ」「キキ」と命名
- ク ユーラシアカワウソ名前募集
平成 30 年 9 月 1 日 (土) ~ 24 日 (月・祝)
平成 30 年 10 月 20 日 (土) に命名式を実施。「陸(りく)」「海(かい)」「風(ふう)」と命名
- ケ 金魚館オープニングセレモニー
平成 31 年 10 月 5 日 (金)
金魚館前にて一般の方を交えたくすだま割りを実施。10 月 6 日 (土) ~ 8 日 (月・祝) にかけて、品評会や金魚グッズ抽選会を開催
- コ 新種のエビを食べよう会
平成 31 年 2 月 9 日 (土)
新種のエビの発見物語についての講演会と新種のエビの試食会を実施
- サ 入館者 1400 万人達成セレモニー
平成 31 年 2 月 28 日 (木)
- ⑤ アクアラバンを活用した営業・広報宣伝
移動水族館専用車両(通称:アクアラバン)により県内外のイベントに出展し、営業活動・広報宣伝を実施した。
 - ・平成 30 年度実績
 - 出動回数(出展数) 15 回 (平成 29 年度比 62.5% 9 回減)
 - 見学者数 29,200 人 (平成 29 年度比 76.8% 8,817 人減)
 - 減少理由: 11 月に開催された世界水族館会議で、活動を自粛したため
- ⑥ キャラクター「権兵衛」PR
館内で来館者サービス・移動水族館や県外観光PR実施

(3) 観光誘致事業

① 地元旅館ホテル等の販売実績

ア 契約宿泊施設等宿泊者限定チケット(地域連携チケット)

- ・いわき市周辺の契約宿泊施設等限定の入館券を販売
- ・契約宿泊施設等・・・11か所 (2組合、1グループ、8施設)
- ・平成 30 年度実績
- 一般 22,755 枚 (平成 29 年対比 103.9% 857 枚増)
- 小～高 5,540 枚 (平成 29 年対比 117.5% 824 枚増)
- 計 28,295 枚 (平成 29 年対比 106.3% 1,683 枚増)

イ 入館前売券販売

- ・平成 30 年度実績
- 一般 8,141 枚 (平成 29 年対比 94.5% 474 枚減)
- 小～高 1,817 枚 (平成 29 年対比 75.6% 587 枚減)
- 計 9,958 枚 (平成 29 年対比 90.4% 1,061 枚減)

② 送客実績

ア 個人(通常料金)

・平成30年度実績

一般	196,342人	(平成29年対比 94.3%	11,864人減)
小～高	43,840人	(平成29年対比 96.4%	1,650人減)
計	240,182人	(平成29年対比 94.7%	13,514人減)

イ 団体(団体料金)

・平成30年度実績

件数	1,013件	(平成29年対比 103.6%	31件増)
一般	20,126人	(平成29年対比 100.2%	40人増)
小～高	3,244人	(平成29年対比 106.7%	205人増)
計	23,370人	(平成29年対比 101.1%	245人増)

ウ 契約宿泊施設等宿泊者限定チケット(地域連携チケット)

・平成30年度実績

一般	22,453人	(平成29年対比 102.0%	453人増)
小～高	5,300人	(平成29年対比 109.4%	456人増)
計	27,753人	(平成29年対比 103.4%	909人増)

エ 入館前売券

・平成30年度実績

一般	7,868人	(平成29年対比 95.6%	365人減)
小～高	1,777人	(平成29年対比 85.6%	298人減)
計	9,645人	(平成29年対比 93.6%	663人減)

オ 年間パスポート

・平成30年度実績

一般	37,990人	(平成29年対比 101.9%	719人増)
小～高	7,974人	(平成29年対比 106.6%	493人増)
計	45,964人	(平成29年対比 103.4%	909人増)

カ 年間パスポートの提示割引

・当館の年間パスポートの提示で割引

(1枚の提示で5名まで 一般200円引 小～高100円引)

・平成30年度実績

一般	2,725人	(平成29年対比 108.9%	223人増)
小～高	709人	(平成29年対比 108.4%	55人増)
計	3,434人	(平成29年対比 108.8%	278人増)

キ 障害者

・平成30年度実績

一般	13,748人	(平成29年対比 101.0%	139人増)
小～高	2,171人	(平成29年対比 104.7%	99人増)
計	15,919人	(平成29年対比 101.5%	238人増)

③ 減免入館実績

ア 学校団体

・平成30年度実績

件数	476件	(平成29年対比 115.3%	63件増)
人数	22,580人	(平成29年対比 112.6%	2,522人増)

イ 幼稚園又は保育園団体

・平成30年度実績

件数 208件 (平成29年対比 92.0% 18件減)

人数 1,327人 (平成29年対比 96.1% 54人減)

※人数には、園児の数は含まない

ウ 市町村主催団体

・平成30年度実績

件数 35件 (平成29年対比 94.6% 2件減)

人数 782人 (平成29年対比 81.1% 182人減)

エ 財団主催団体

・平成30年度実績

件数 6件 (平成29年対比 100.0% 増減なし)

人数 174人 (平成29年対比 99.4% 1人減)

④ コンビニチケット

・平成30年度、コンビニチケット全体の入館者数は、11,152人
(※11,152人=8,746人+2,406人)

・平成29年度対比で2,823人増 133.9%の結果となった。

ア 通常チケット(販売額 一般1,800円 小～高900円 通年販売)

・平成30年度実績

一般 6,316人 (平成29年対比 132.9% 1,563人増)

小～高 2,430人 (平成29年対比 121.0% 422人増)

計 8,746人 (平成29年対比 129.4% 1,985人増)

イ ラブカップルチケット

(一般2人分のペアチケット3,400円 期間限定販売)

・平成30年度実績

ペア券 1,203枚 (平成29年対比 153.4% 419枚増)

人数 2,406人 (平成29年対比 153.4% 838人増)

⑤ 助成券利用実績

・平成30年度、助成券全体の入館者数は1,221名
(※1,221人=317人+393人+485人+26人)

・平成29年度対比で246人増、125.2%の結果となった。

ア 福島県職員助成券

・平成30年度実績

一般 273人 (平成29年対比 111.0% 27人増)

小～高 44人 (平成29年対比 125.7% 9人増)

計 317人 (平成29年対比 112.8% 36人増)

イ 福島県教職員助成券

・平成30年度実績

一般 291人 (平成29年対比 94.2% 18人減)

小～高 102人 (平成29年対比 95.3% 5人減)

計 393人 (平成29年対比 94.5% 23人減)

ウ 私学職員助成券

・平成30年度実績

一般 388人 (平成29年対比 170.9% 161人増)

小～高 97人 (平成29年対比 190.2% 46人増)

計 485人 (平成29年対比 174.5% 207人増)

エ 山形利用補助券

・平成30年度実績

一般 24人 (平成29年度実績なし)

小～高 2人 (平成29年度実績なし)

計 26人 (平成29年度実績なし)

(4) 地域交流事業

積極的に周辺地域と交流を深め地域振興に貢献した。

- ① 小名浜まちづくり市民会議へ参画
会員として会議やイベントに積極的に参画
- ② 小名浜港まつりへの協賛
館内外の花火大会の観覧に配慮してイベントに貢献
- ③ ばんえつ発見の旅サポートの連携事業
・磐越道沿線の12文化施設との連絡協議会
・各館共通割引券作成、当館では1, 124枚の利用
- ④ いわき ら・ら・ミュウ、小名浜美食ホテル、イオンモールとの連携
・毎月1回、上記担当者との四者協議会を開催
・上記3社と情報交換を密にし、相互にイベントへの協賛や協力

ア いわき ら・ら・ミュウ

・いわき ら・ら・ミュウが入館前売券を仕入れ、いわき ら・ら・ミュウ内のお店で購入した方に、団体料金で安く販売

・平成30年度購入実績 650枚(一般500枚+小～高150枚)

- ⑤ 移動水族館専用車(アクアラバン)を活用した地域交流の推進
県内外の文化施設での移動水族館開催
・平成30年度実績
出動回数(出展数) 5回(平成29年度比 250.0% 3回増)
見学者数 7,797人(平成29年度比 622.8% 6,545人増)
- ⑥ 近隣動物園・水族館との連携
栃木・茨城・群馬・福島動物園・水族館との連携事業「ファイト9」に協力(平成30年度は当館が事務局)

6 学習交流事業

(1) 解説活動事業

子どもから大人まで多くの人々が、海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設をめざし、一般来館者を対象に次のような解説活動を実施した。

① バックヤードツアー

当館のボランティアが展示水槽のキーパースペース、実験室、調餌室、サーブスヤード、濾過槽、ホルマリン室を案内しながら、水族館の仕組みや飼育員の仕事について紹介した。(参加者数23,388名)

② ハンズオン解説

アクアマリンえっぐのボランティアーズステーションにおいて、小名浜港で採集したプランクトンの観察や化石、標本などを手に取って観察できるハンズオン解説を行った。

- ③ アクアマリンえっぐワークショップ
アクアマリンえっぐにて有料の工作体験として通年でワークショップを実施した。年度内に「ヒオウギガイのキーホルダー」作りや「縄文発掘体験」など内容を9回変更した。（参加者数9,724名）

(2) 企画展開催事業

館内外における季節演出および催事等の実施

- ① テオ・ヤンセン展 in ふくしま 2018
平成30年3月3日（土）～5月6日（日）
主催：テオ・ヤンセン展実行委員会
オランダ人の芸術家テオ・ヤンセン氏が製作したストランドビースト13体の展示を行った。
- ② Happy Oseans サミット実施
・平成30年4月28日（土）
第2回「ふくしまの海～大陸棚への道～オープン記念」
・平成31年3月30日（土）
第3回「ふくしまをアップデートしよう」
水産資源の現状とその利用のあり方を一般の方に発信した
- ③ GW イベント
平成30年4月28日（土）～5月6日（日）
テオ・ヤンセン展の作品を動かす「リ・アニメーション」の実施、蛇の目ビーチ海開きを記念した生き物放流会、大水槽の潜水給餌を実施
- ④ 蛇の目ビーチで潮干狩り
平成30年5月12日（土）～27日（日）の土曜日・日曜日
- ⑤ 生き物の七夕飾り
平成30年6月16日（土）～8月7日（火）
- ⑥ 夏休みイベント
平成30年7月14日（土）～8月19日（日）
夏休みの自由研究に役立てていただくため、毎回テーマを変えて飼育職員が生き物について解説する「アクアマリンカフェ～飼育の達人と語ろう～」やウォークラリーを実施。海の俳句大会、一般参加者を募った港の清掃活動、お盆には金魚まつりを開催した
- ⑦ 小名浜国際環境芸術祭 2018
小名浜国際環境芸術祭は、2003年に開催されてから今年で15回目を迎えた。大漁旗デザイン展を中心に、海をテーマとした様々な芸術作品を展示した。
開催期間：平成30年9月22日（土）～11月18日（日）
○第11回小名浜国際大漁旗アートコンペ 受賞者作品展
期間：平成30年9月22日（土）～11月18日（日）
○友好園館の大漁旗展
期間：平成30年9月22日（土）～11月18日（日）
○アクアマリン野外環境芸術祭
期間：平成30年9月22日（土）～11月18日（日）
○ヒモノアート展
期間：平成30年9月22日（土）～11月18日（日）

○アートカツオ展

期間：平成30年9月22日（土）～11月18日（日）

○海からの贈り物 シーボーンアート展「美しい海を未来に/海からの警告」

協力：NPO 日本渚の美術協会

期間：平成30年9月22日（土）～11月10日（土）

○キッズアート展 封筒魚コンテスト

期間：平成30年9月29日（土）～11月26日（月）

○第46回我ら海の子展（巡回絵画展）

主催：一般財団法人サークルクラブ協会・公益社団法人日本海洋少年団連盟

期間：平成30年9月29日（土）～10月28日（日）

○俳句の季（とき）コンテスト

期間：平成30年10月20日（土）～11月25日（日）

○海の男の盆栽展

協力：小名浜盆栽研究会

期間：平成30年11月3日（土）～11月11日（日）

○写真展「縄文列車で旅に出よう 二人展」

期間：平成30年11月2日（金）～

○猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト入賞作品写真展

協力：猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会

期間：平成30年10月29日（月）～11月18日（日）

⑥ アクアマリンクリスマス

平成30年11月23日（金・祝）～12月25日（火）

エントランスホールに大型ツリーを設置。アイシングクッキーや松ぼっくりツリー、リースづくりなどの体験教室、キャンドル点灯式等のイベントを実施

⑦ 那須どうぶつ王国ふれあい動物園

平成30年12月28日（金）～平成31年1月3日（木）

アクアマリンふくしまのイベントとして、那須どうぶつ王国の移動動物園を開催した。（開催場所：小名浜美食ホテル2号棟「潮目交流館」）

⑧ お正月イベント

平成30年12月28日（金）～平成31年1月14日（月・祝）

平成31年の干支「亥」にちなみ、ヌノサラシを展示した他、お正月プレゼントやカルタ大会を実施した。

⑨ 立体コラージュワークショップ

平成31年1月27日（日）

ミュージシャンでありアーティストである「たむらばん」による漂着物などを利用したコラージュ作品作りを実施

⑩ ひな祭り

平成31年2月9日（土）～3月3日（日）

ちりめん細工教室「ままや」つるし飾りの展示とちりめん細工体験教室を実施

⑪ 飼育員のつぶやき展

平成31年3月21日（木・祝）～5月21日（日）

飼育職員が担当している生物や飼育しているのこぼれ話を写真とともに紹介するパネル展を開催

(3) 展示事業

魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板、情報ソフト等の更新を随時行い、図書や映像ソフト等の充実にも努めた。

- ① 放射線に対する基礎的な情報や館内の環境放射線量、海水中の放射性物質などの情報を提供するとともに、当館が行っている調査研究について展示を行った。
- ② オセアニックギャラリーでは「環境水族館からのメッセージ」「漁場から食卓まで」「あぶくま東縁の地質生物」「弁財天ウナギプロジェクト」「よみがえれ木戸川」「採集する。研究する。展示する。」について展示した。
- ③ 2階ホワイエの図書コーナー、えっぐのキッズコーナー、ボランティアーズステーションの図書やぬいぐるみ、観察用機材の管理を行った。
- ④ 縄文時代動物柴犬の展示（アクアマリンえっぐ）を行うと共に、血統を管理する天然記念物柴犬保存会の展覧会をえっぐの森で開催した。
- ⑤ うみう展示（アクアマリンえっぐ）いわき照島生息地天然記念物指定
- ⑥ わくわく縄文の里において、日本産淡水生物、アカネズミ、コシジロヤマドリ、オオコノハズクの展示を行った。
- ⑦ おまつり広場に伝馬船工房を建築し、「海竜丸」「地球1号」の2艘の伝馬船を製作した。
- ⑧ 炭焼き窯「たろうがま」を製作し、3回の炭焼きを行った。

(4) 学校教育関連事業

① ガイダンス・館内学習

当館に来館した学校団体を対象に施設の展示概要の紹介と館利用上の注意点等を解説するガイダンスを実施した。特に平成30年度からは、利用時間に余裕のない学校団体を対象に短時間でガイダンスを行う「ミニガイダンス」を導入した。

また、当館に来館した学校団体を対象に研修室などで授業を行った。当館の釣り堀を利用した命の教育、獣医の仕事の紹介、震災からの復興などをテーマとした学習を実施した。（139回実施、対象者数8,181名）

② 館外学習（ゲストティーチャー）

当財団の職員を学校へ派遣し、学校で授業を行った。

（6校、対象者298名）

③ 移動水族館の実施

移動水族館専用車（アクアラバン）による生物の観察と標本や化石などを手に取って観察をするハンズオン展示、レクチャーを行う移動水族館を実施した。（20校、対象者数2,366名）

④ 職場体験・インターンシップ・博物館学芸員実習の実施

中学校、高等学校、大学の生徒・学生を対象に、業務体験をとおして職業観・勤労観の習得や進路指導の一環を目的とした実習を実施した。

ア 中学校・高等学校生徒の職場体験 12回実施 対象生徒数38名

イ 大学生のインターンシップ、高校生のジュニアインターンシップ

6回実施 対象生徒、学生数 15名

⑤ 館内学習支援事業

いわき市内の小学校を対象に当館のバスで児童を送迎し、館内において学習活動を実施した。（16回実施、対象者数443名）

⑥ 教員セミナー、教員研修の実施

8月1日から3日の3日、県内の教員を集めて、当財団が実施している館内学習を体験する教職員セミナーを開催し、74名が参加した。

(5) 情報提供事業

① 情報コーナー

情報コーナーでは、国内外の友好園館の展示を行った。

② インターネットによる情報提供

ホームページを更新することにより、様々な情報提供を行った。最新生き物情報欄では生物の搬入搬出や繁殖出産の情報を、ニュース欄では季節ごとのイベントや企画展の詳細、参加体験プログラムの募集等の情報を発信した。また、風評被害払拭に関わる環境放射線量や海水中放射性物質など放射線量の情報については毎週更新した。

併せて、フェイスブック、ツイッターを活用して、生き物の搬入や新規展示、生き物の様子など展示生物に関する情報のほか、イベントの実施状況など、タイムリーな情報提供をほぼ毎日行った。

③ 機関誌の発行

水族館の活動内容をはじめ、生物や海に関する様々な情報を掲載した機関誌「AMF NEWS」を年4回発行した(発行部数 5,000部/回)。

④ プレスリリース

テレビ、雑誌等の取材協力を積極的に行うとともに、年間121件の投げ込みを実施した。テレビの取材が28件、新聞の取材は160件あった。

7 スクール開催事業

海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高めることを目的に、各種スクールを開催した。

(1) スクールの開催

事前募集を行った参加者を対象として様々な体験活動を提供するスクールを開催した。

- ・キッズプログラム：17回335名
- ・ナイトプログラム(宿泊プログラム)：6回154名

(2) 炭火烧体験、かつお節削り体験

子ども漁業博物館「うおのぞき」の命の体験プログラムとして、ホタテガイやハマグリ、サザエなどの活きた魚介類を炭火で焼いて食べる炭火烧体験と昔ながらの手動の製造機で缶詰をつくる体験、かつお節を削る体験を提供した。

(3) 釣り体験

アクアマリンえっぐの釣り場において魚を釣って調理し、食べるという体験を提供し、子どもたちに命の教育の機会を提供した。(参加者数20,003組)

8 ボランティア等活動事業

アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進した。また、ボランティア活動者に対しては、資質向上のための専門研修を継続的に行い、本施設を自らの学習・実践の場として積極的に提供した。

第1期～第20期ボランティア更新者	206名
第21期新規ボランティア登録者	22名
登録者数(平成31年3月31日現在)	228名

9 施設管理事業

(1) 修繕工事

① 電気設備工事

- ア 非常放送設備及び放送設備の増設を行った。
- イ 水生生物保全センターの監視カメラ増設を行った。

② 土木工事

人にやさしいまちづくり条例対策として、縄文管理棟前に点字シートを設置した。

③ 設備工事

人にやさしいまちづくり条例対策として、縄文管理棟チケットカウンターを車いす対応に改修した。

(2) 省エネルギー・光熱費対策

熱源機の運転調整と季節に応じた設定水温変更、屋外緑地帯の散水の工業用水への一部切り替え等によりエネルギー使用量と光熱費を削減した。

(3) 主要維持管理施設

主要維持管理施設は、次のとおり。

① いわき市小名浜字辰巳町地内

ア ふくしま海洋科学館

・本館等敷地面積		56,189.52㎡
・本館延床面積		12,935.11㎡
・水生生物保全センター延床面積		925.09㎡
・子ども体験館「アクアマリンえっぐ」延床面積	1,	266.70㎡
・屋外トイレ面積		106.18㎡
・温室面積		52.54㎡
・わくわく里山・縄文の里関連施設延床面積	1,	509.56㎡

イ 駐車場関係

・施設外駐車场面積		12,093.81㎡
-----------	--	------------

② いわき市小名浜下神白字松下地内

ア 海水取水・送水施設

・取水ポンプ棟延床面積	1棟	84.43㎡
・ろ過送水棟延床面積	1棟	180.04㎡
・取水管(管径 350mm)		91.10m×2条
・揚水管(管径 300/350mm)		146.00m
・送水管(管径 250mm)		2,885.04m

③ 和歌山県串本町

ア 水生生物保全センター分館

・延床面積		180.00㎡
-------	--	---------

(4) 来館者用駐車場の確保

繁忙期に臨時駐車場を確保し、安全かつスムーズな整理誘導を行った。

駐車場は次のとおりである。

- ① 常時使用駐車場
 - ・オアシス駐車場 282台（うち身障者用5台、バス15台）
 - ・公共駐車場 452台（うち身障者用17台）
 - ② 臨時駐車場 775台（小名浜港湾建設事務所から随時借用する）
- * 駐車場合計 1,509台

10 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館管理運営事業

猪苗代町緑の村管理センター、釣堀・養魚鑑賞池、淡水魚館の3施設の総称を「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」として、福島県内及び猪苗代湖の希少淡水生物の保全をテーマに統括的な施設運営を図り、参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動に関する事業を展開した。

また、現淡水魚館内に希少淡水生物繁殖保全水槽を設置し、福島県内の希少淡水魚、は虫類、両生類、鳥類、哺乳類等の保全活動と調査研究を行い、情報発信に努めた。

(1) 施設の概要

○猪苗代町大字長田字東中丸地内

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館

猪苗代町緑の村管理センター	736.00㎡
猪苗代町緑の村釣堀、養魚鑑賞池	10,000.00㎡
猪苗代町淡水魚館	605.10㎡

(2) 展示事業

- ① 福島県の淡水生物の展示
- ② 猪苗代情報パネル展示
- ③ カワセミ、カワガラス展示
- ④ 希少淡水魚繁殖保全水槽
- ⑤ 県内に生息するゲンゴロウを始めとする水生昆虫の展示水槽
- ⑥ 福島県の両生類の展示水槽
- ⑦ ユーラシアカワウソの展示
- ⑧ カワネズミの展示
- ⑨ 国外・国内外来種の淡水水生生物の展示
- ⑩ 企画展（サクラソウ展、食虫植物展、水生昆虫展）

(3) 体験プログラム

- ① 釣り体験の実施、館内観察オリエンテーリングの実施
- ② 参加体験型（小川水槽）展示
- ③ 塗り絵コーナー、飛び出す水族館他のワークショップコーナーの設置
- ④ 木育キッズコーナー「森のこぼこ」

(4) 情報発信

各種展示及び新規ホームページを通じて、猪苗代湖の保全、希少淡水魚の繁殖・保全を来館者に対して情報発信した。

- (5) ボランティア活動
 - ① 釣り堀運営支援
 - ② 館内解説補助
 - ③ 来館者の参加体験支援

II 収益事業

1 ミュージアムショップ運営

店舗名称 ウミノス・ゴンベッサ・アクアマリンショップ JOHMON

3店舗にて商品販売。

売上額 185,202,822円

(平成29年度実績 179,928,254円 前年度比 102.9%)

(震災前 平成22年度実績 282,063,891円 H22比 65.7%)

2 レストランの運営

おいしい水族館「HAPPY OCEANS」をテーマとした資源量豊富な漁業資源の食材をオリジナルシーフードメニューとして開発し提供した。

(1) レストランアクアクロス

売上額 46,095,110円

(平成29年度実績 44,624,030円 前年度比 103.3%)

(震災前 平成22年度実績 37,392,835円 H22比 123.3%)

(2) 露店 The Roten Café Breeze

繁忙期に、テラス軽食販売を実施。

委託料収入 979,324円

(平成29年度実績 1,018,241円、前年度比 96.2%)

(3) 寿司処「潮目の海 HAPPY OCEANS」

資源の持続的な利用をテーマに大水槽前で寿司の提供を行った。

委託料収入 832,261円

(平成29年度実績 855,175円 前年度比 97.3%)

3 イブニングイベント事業

雑魚を美味しく食べる会 (名称・雑魚の会)

雑魚のブランド化及び地域交流の場を趣旨として年12回開催。

(参加者数計 329人)

4 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館のショップ開設

飼育展示生物をモチーフにオリジナル商品をカワセミ館で開発販売し、収入確保に努めた。

売上額 7,427,620円

(平成29年度実績 5,787,060円 前年度比 128.3%)